



高校受験と 高校生活の 虎の巻

虎の巻とは：

兵法の秘伝を記した書物のこと。

高校受験を必ず成功させる。そのためには残り数ヶ月の過ごし方を知ることに加え、高校受験の先までをイメージすることが必要。

納得のいく合格、そして憧れの高校生活スタートへ。

成功の秘訣が詰まった Freewill 学習塾 オリジナルハンドブック

目次

| | |
|------|---|
| はじめに | 3 |
|------|---|

【第1部】

| | |
|--------------------|---|
| 合格までの道 その1～冬期講習まで～ | 4 |
|--------------------|---|

| | |
|------------------|----|
| 合格までの道 その2～冬期講習～ | 10 |
|------------------|----|

| | |
|-------------------|----|
| 合格までの道 その3～入試直前期～ | 11 |
|-------------------|----|

【第2部】

| | |
|------------------|----|
| 高校受験の先をイメージしてみよう | 13 |
|------------------|----|

| | |
|------------|----|
| 高校受験後の落とし穴 | 14 |
|------------|----|

| | |
|------------------------|----|
| 落とし穴に落ちる前に・・・大学入試を知ろう！ | 19 |
|------------------------|----|

| | |
|---------------------|----|
| まとめ：高校受験後の過ごし方のポイント | 22 |
|---------------------|----|

| | |
|------|----|
| おわりに | 23 |
|------|----|

はじめに

このお便りをお読みいただきありがとうございます。お読みいただいているのは、今年高校受験を控える受験生か、その保護者様かと思います。

受験学年の今年も早くも11月半ばに入りました。私立入試が2ヶ月半後に、都立入試が3ヶ月後に迫っており、**残された時間が少なくなってきている**と実感している方も多いのではないのでしょうか。

そこでこの冊子では、限られた時間を最大限使い、高校受験を素晴らしい合格で飾るための秘訣をお伝えいたします。受験生ご本人だけでなく、保護者様にもお読みいただき、塾と受験生、保護者様が一体となって合格に向かっていければと思います。

まず本冊子前半では、**合格に至るまでのロードマップ**をお伝えします。志望校の決定から始まり具体的な学習内容までが書いてあります。**やるべきことを一つ一つ明確にして、塾を十二分に利用・活用し、不安なく合格に向かって進んでいきましょう。**

また Freewill 学習塾では、**高校受験に合格することを最終的なゴールとは考えていません**。高校生活の成功までを含めて高校受験の成功だと考えています。そこで本冊子後半では、**高校合格後のイメージを持ってもらうための情報を盛り込んで**おります。高校合格をゴールと考えるのではなく、あくまで通過点と考えることで、高校受験の合格が近づきます。この時期に高校受験後の学習のイメージをご家族で共有してもらい、高校受験を勢いよく駆け抜けて確実な合格を手にしてほしいと思っています。

塾、お子様、そして保護者の皆様が、正しい情報を共有し合い、三位一体となって今後の学習を進めていく必要があります。

是非、じっくりとお読みください。

【第一部】

ここからは、合格をするために必ず知っておいてほしいこと、実践してほしいことをご説明します。志望校選びや目標点数の設定など、目指すべきゴールを決定する方法から始まり、実際の学習の方法や生活習慣など、具体的な過ごし方までお話をします。

今の受験生に残された時間はとても少ないです。そして一気に合格をもたらす魔法の方法はありません。

しかし、それらの条件はどの受験生も同じです。違いをもたらすのは、**当たり前のことをどれだけ当たり前に行えるか**、これにつきます。ここにかかれたことを一つ一つ実践し、合格を確実なものにしましょう。

この内容は受験生本人だけではなく、保護者様も読んでいただきたい内容です。受験に向け、ご家庭の中で共通認識を作ってもらいたいからです。

高校受験は孤独な戦いのようであってそうではありません。一緒に残り数ヶ月を駆け抜けましょう。**高校受験を通じた受験生の大きな成長を楽しみにしています。**

合格までの道 その1～冬期講習まで～

さて、「はじめに」でも書いたように、私立入試まであと2ヶ月半、都立入試まであと3ヶ月しか時間がありません。まずは残されたこの時間を有意義に活用するために何をすべきかを、順を追って説明いたします。

①最終志望校を決定しましょう！

○中学校側との相談があります！

すでにご存じかと思いますが、11月なかばの後期中間・2学期期末試験が終了したあとは、中学3年生は「最終内申」が中学校から伝えられます。また、その内申をもとに11月最終週から12月1週目にかけて、中学校の先生と面談を行います。

中学校の先生との面談では**志望校や併願校**の相談をし、単願推薦および併願優遇制度を利用する生徒はここで出願先の確定を行います（都立・私立の一般入試の出願は1～2月なのでまだ少し先です）。

○志望校選びのポイントはこれです！

中学校の先生と面談をする前に、**志望校について複数の選択肢**を持っておくことにしましょう。都立志望か私立志望かによって考え方が少し異なるので、以下で説明します。

(1) 都立第一志望の方

塾から配布をしている「80%合格基準偏差値」の表を活用してください。基準の換算内申と現状の換算内申を比べ、以下のように**3段階の志望校の設定**をすることができているか、今一度確認してみてください。

- ・チャレンジ校：現状の換算内申+2～3の範囲
- ・適正校：現状の換算内申±1の範囲
- ・安全校：現状の換算内申-2～3の範囲

後ほど書くように、これらの志望校のうちどの学校を受験するかは、1～2月の学力状況により、出願直前に塾と面談する機会を設けています。

(2) 私立第一志望の方

単願推薦に内申が届かない場合、もしくは単願推薦制度を採用していない学校を志望する場合は、2月の一般入試の一発勝負になります。現状の学力と入試の難易度を塾に問い合わせ、**チャレンジ校・適正校・安全校を用意**できているようにしましょう。

○何か迷ったら、塾の先生と相談しましょう！

志望校選びはとても大変です。各高校の校風や進学実績など、すぐにはわからないことだらけです。Freewill 学習塾からは、これまでたくさんの先輩が高校受験を経て進学していきました。その経験から、パンフレットや学校 HP からだけではわからないこともアドバイスをできます。**迷うことがあればすぐに相談**しましょう。

②目標点数を設定しましょう！

○各教科の目標点数を決めましょう！

内申点及び志望校の基準得点から、**入試本番で1教科何点取ればいいのか**を算出し、得意・不得意に応じて、科目ごとの目標点数を決定しましょう！

例えば都立高校の数学の入試問題であれば、大問1の計算問題を完璧にすれば46点をゲットでき、他の各大問の(1)(最も簡単な問題)だけとれば、66点はゲットすることができます。

○具体的な目標は塾の先生と相談して決めましょう！

このように**教科・問題によって明確な戦略**があるので、塾と相談してしっかりと決めていきましょう。「君は数学が得意だから数学で8割、英語で7割をとれるようにしよう。そのために数学は大問2～4の(2)までは取れるようにしよう。英語はまずは大問2・3に力を入れた方がよいね」といった、**具体的なアドバイス**をもらいましょう。

③入試対策を本格化させましょう！

目標となる学校・点数が決まった後は具体的な学習が始まります。特に11月後半からは入試対策が本格化し、さまざまな学習機会が与えられます。一つ一つしっかりと消化し、ここで一気に学力を高めましょう。

○入試対策のための豊富な学習機会

Freewill 学習塾では、この時期に以下のような入試対策を設けています。

①入試への道スタンダード（通称：スタンダード）

全員にお配りしている「入試への道スタンダード」では基礎知識のインプットを引き続き行います。この時期になると2・3週目に入っている生徒さんも多いかと思います。遅れている生徒さんも、内申対策に使っていた時間をスタンダードに充て、しっかりとペースを守れるようにしていきましょう。

②入試特訓講座後期

「スタンダード」でインプットした知識を、いかにアウトプットするかを学ぶのが入試特訓講座です。問題の見方・処理の仕方、時間配分の方法など、インプットで身につけた知識を活用する方法を学びます。11月26日からは、入試特訓後期講座が始まり、夏期講習及び入試特訓前期講座で身につけた入試基礎力の上に、実戦力をつけていきます。

③週1過去問演習

入試特訓で学んだアウトプットの方法を自分一人で実践し、実力をチェックするために、週1回の都立入試過去問演習の課題を提出してもらいます。私立受験生に関しても、私立過去問の基礎となる都立過去問をこの時期に解いていただきます。Freewillでは、「過去問10年分」の演習を毎年掲げており、徹底した過去問演習をいたします。

④平日個別授業での弱点フォロー

入試特訓や週1過去問演習を行う中で、各々の課題が浮き彫りになってきます。そこで通常授業では個々の弱点に焦点を当て、そのフォローを行います。

本当に力がつく学習方法とは？

入試までの戦略は、ここまで書いた①～④でほぼ網羅されているのでご安心ください（個々に追加課題が必要な生徒さんについては、各々面談等でお伝えします）。ただ問題は、**しっかりとこれらの学習内容を消化できるかどうか**です。以下では実際に学習を行う際の方法についてポイントをお伝えします。

○スタープランナーを活用しましょう！

入試対策が本格化すると、やるべきことの量が増え、複雑さが増します。これまでのように授業の宿題をやるだけでなく、入試特訓の宿題、週1過去問、スタンダードなど多様

な課題をこなす必要が出てきます。そこで塾からお配りしている**スタープランナー**を十二分に活用していただき、ご自身のスケジュールを組んでみてください。この計画力が高校入学後、ひいては今後の人生でとても有用な力になります。書き方がわからない生徒さんについては、個々に計画の作り方をお教えいたしますので、お声がけください。

○ノートの取り方を工夫しましょう！

また、知識を蓄積するための道具であるノートを適切に使うことも改めて意識しましょう。ノートを科目ごとに分け、各ページに日付・ページ番号・教材名などを書くという基本中の基本はもちろんのこと、**途中式を書く**、**得た知識やポイントを書く**など、「**知識を貯める道具**」としてノートを活用してください。

○「何がわからないか」を明確にしましょう！

「勉強をしているけど成果に繋がらない」としたら、原因は**問題演習のやり方**にあります。問題を解くだけ解いて、丸つけするだけでは一切成績があがりません。丸つけをした後で「何がわからないか」を明確にしてから初めて学力の上がる勉強が始まります。具体的には、丸つけの後に、①**間違った問題の解説を読んで解き直す**②**わからない問題や言葉・単語は調べたり質問したりする**、という行動をするかどうか**成績の分かれ目**になります。「何がわからないか」を明確にし、それを解消するということです。

○「この問題から何が学べたか」を明確にしましょう！

「何がわからないか」がわかり、それを解消ができたなら、そこで止まってははいけません。必ず「**この問題から何が学べたか**」を明確にする必要があります。例えば「相似条件を覚えるべきだとわかった」「鎌倉幕府滅亡の原因の一つがモンゴル人の来襲だとわかった」といったように、です。そしてこの明確になった「**学べたこと**」をノートに書き留めておき「**知識を貯める道具**」としてのノートを充実させるのです。

○「学べたこと」を覚える努力をしましょう！

最後に、「学べたこと」を覚えなければ意味がありません。覚えるためには①**隙間時間**を活用する②**忘れた頃に復習する**③**眺めるだけではなく隠して覚えているかをチェックする**、といった基本的な行動が求められます。

④生活習慣を整える

入試対策に全力を注ぐ中で、生活習慣を整えることが重要です。いきあたりばったりの学習では効果がでないので、学習のリズムをつくりましょう。それに加えて、生活のリズムも作り、健やかな体と頭で入試に向かっていきましょう。

○早寝早起きのリズムを作りましょう！

- ・7時間半の睡眠をとり、6時に起きる習慣をつけましょう

入試は9：00ごろに始まります。起きてから人間の脳が活性化するまで3時間かかると言われています。6：00に起き、問題を解く頃には脳が活性化しているようにしておきましょう。

- ・習慣はすぐにはつきません

入試前日・当日だけ早寝早起きしても、生活習慣になっていないので、体が驚いてしまい、逆効果になります。生活習慣がつくには3ヶ月かかるので、今日から少しずつ起きる時間を早くすることによって、体に早寝早起きを慣れさせましょう。

○感染症予防を徹底しましょう！

・せっかく努力しても、インフルエンザや新型コロナウイルスにかかると、勉強がストップしてしまったり、最悪の場合入試が受けられなくなったりします。

・そこで、手洗いがいい、アルコール消毒を徹底しましょう。気温が下がってくるので、暖かい服装をこころがけましょう。そして、親御さんが作ってくれるご飯をたくさん食べ、上のように早寝早起きのリズムを作りましょう。



合格までの道 その2～冬期講習～

12月の後半からは冬期講習が始まります。実力がグッと伸びる冬期講習。そのポイントをしっかりと理解してから臨みましょう。

①過去問の解き直しの徹底をする！

冬期講習の一つの目的は、過去問の解き直しを通じ、**得点力を短期間にアップ**することです。

上で書いたように、12月から過去問演習の量が増えてきます。しかし過去問はいくらやっても**解き直しまでしなければ意味がありません**。冬期講習では、厳しく時間を計りながら、**過去問の解き直しを徹底**します。12月の入試特訓や個別通常授業で補強した苦手分野が、しっかりと克服できているかどうかのチェックをいたします。

②正月宿題が出ます！

Freewill 学習塾では、正月特訓は行わず、年末年始5日間の休校日には、塾から課す**正月宿題**に取り組んでもらいます。あえて正月特訓を行わないのは、この期間に**誰にも頼らず自分の学力をあげる環境**に自分を追い込んでほしいからです。受験当日は先生が隣にいるわけではありません。一人でも頭をフル回転させ、集中して机に向かわなければいけません。この5日間でその練習をしましょう。塾から**5日間の時間に見合った宿題**をだします。休みに入る前にしっかりと学習計画をたて、充実した5日間にしましょう。

③集中力・勉強体力をつけましょう！

冬期講習は1コマ75分で、標準的には中学3年生は1日4～5コマの受講をしてもらうことになります。この時期にこれほどの量の学習をするのは、上記の通り得点力アップのためであるのもさることながら、**集中力や勉強体力をつける**ことも一つの目的となっています。入試は1日に3～5教科の問題を、短い休憩を挟みつつ解いていきます。休憩時間もリラックスすることはできず、朝から午後まで集中力を切らすことはできません。冬期講習を12日間走り抜けることで、**入試本番に力を120%出せるだけの集中力・勉強体力**をつけましょう。



合格までの道 その3～入試直前期～

冬期講習が終わり、1月半ばになれば、もう入試はすぐそこに近づいています。残された時間をどう過ごすのか、ご説明いたします。

①受験校の最終確認

○中3生だけ特別最終面談があります！

一般入試が一ヶ月後に迫ったこの時期は、最終的な出願も目前に迫る中、中学生は受験校を決定するための生徒面談・保護者面談を特別に行います。

入試対策として行ってきた模試の点数・過去問演習の点数・入試特訓での点数などの推移を踏まえ、**本番でどの程度の点数が取れるかを塾側で予想**いたします。その予想のもと、受験候補校ごとの合格可能性について、塾側の見解をお伝えします。

これらの情報をもとに、家庭内で**出願の最終判断**をしてもらいます。

②入試までの最終調整

○入試までの最終調整をしましょう！！

受験校が最終決定した後は、**入試日までの最終調整**に入ります。冬期講習で明らかになった弱点を補強し、本番を意識した演習を重ねます。冬期講習明けの生徒面談で残り1月のやるべきことを整理し、スタープランナーを活用して学習の計画を作ってもらいます。

1点が可否を分ける入試です。最後までやるべきことをやりきりましょう。

○下見や当日の想定をしておきましょう！

入試当日は、志望校で受験をすることになります。多くの場合電車で受験会場まで行くことになるので、必ず前もって、**当日と同じ時間の同じ電車に乗り、本番当日にむけて十分なシミュレーション**をしましょう。電車の混み具合や乗換方法などをチェックし、明確にイメージを沸かせましょう。また当日は天候によっては電車の遅延があったり、思わぬトラブルがあったりします。**天候によってどのように動くか**を家庭内で決めたり、塾に相談してみたりしてください。

【第二部】

ここまでの【第一部】では、合格をするために必要なことを説明しました。この内容を一つ一つおこなっていってくれば、合格は限りなく近づきます。

さてここからの【第二部】は、さらに高校合格を確実なものとするため、**高校受験の先にあるもの**についてお話しします。

Freewill 学習塾では「**高校合格は通過点に過ぎない**」と伝えています。それは、高校入試の先までイメージをしていた方が、高校受験の合格が確実になるためです。

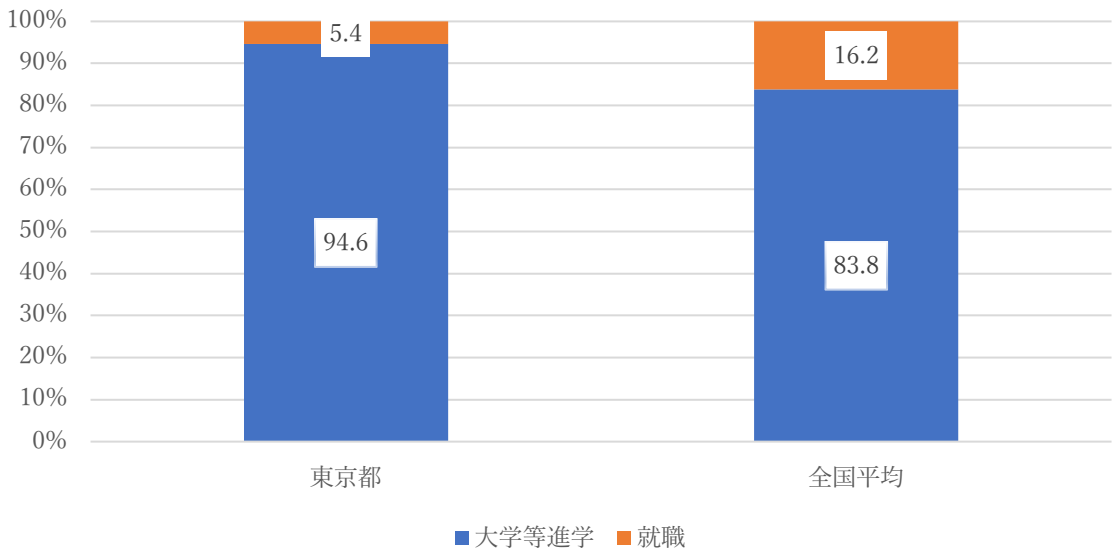
また高校に合格したとしても、その後の高校生活が充実していなければ、高校入試は成功と呼べません。Freewill 学習塾は、受験生に高校受験で燃え尽きてほしくはありません。**高校合格を通じ、受験生が成長し、充実した高校生活を過ごし、その後大きく羽ばたいていくことを強く願っています。**

今から高校生活をしっかりとイメージしておくことで、合格をより確実なものにするだけでなく、充実した高校3年間を送る準備をするようにしましょう。

高校受験の先をイメージしてみましょう！

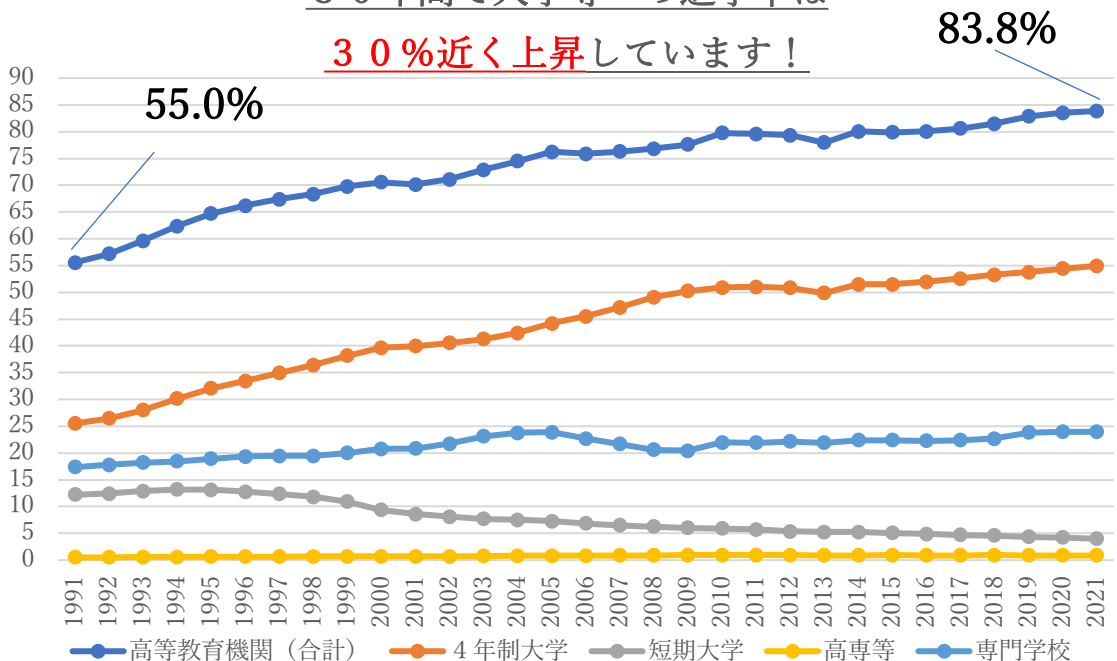
さて、1～2月の高校受験の先には何が待っているのでしょうか。イメージを沸かせるために、手始めに高校3年間の出口、つまり**高校の先の進路状況**を見てみましょう。まずは次の2つのグラフを見てみましょう。(いずれも文部科学省「学校基本調査」より作成)

東京都の**高校3年生の94.6%**は大学等に進学します！



30年間で大学等への進学率は

30%近く上昇しています！



前のグラフからわかるのは、東京都では、高校の出口として**就職という選択を選ぶ学生がほとんどいない**ということです。下のグラフは東京に限定せず全国のデータを用いていますが、ここからは「ここ**30年の大学等への進学率は上昇し続け、現在は8割以上の高校3年生が進学している**」と読み取れます。これらから、近年ほとんどの高校生にとって、「**高校の先の進学をどのように行うか**」が切実な問題になっているとわかります。

「また受験か」と思うかもしれませんが、実は大学受験は高校受験とは異なる意義をもっています。その可能性のうち、「**本当にやりたいこと**」を選び追求できるのは高校ではなく大学だからです。いま14歳・15歳の中学3年生には無限の可能性が開かれており、その可能性を追求できるかが決まるのが大学受験なのです。

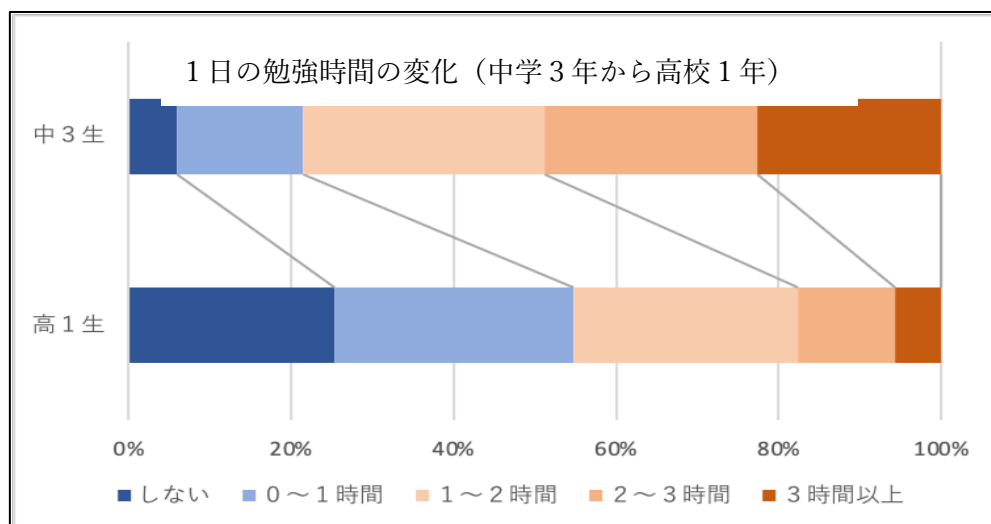
そのため、「**高校合格は通過点**」だと考え、今から高校の先をイメージし、これからも自分の可能性を追求して行ってほしいと思います。今勉強しているのは、高校入学のためではなく、高校の先の選択肢を最大にするためだと考えてほしいのです。

高校受験後の落とし穴とは？

このように、高校の先の進学のイメージを持って高校受験をしてもらいたいのですが、多くの受験生にはそれができません。「**高校合格がゴール**」だと考えてしまい、その結果どうなるでしょうか。高校受験自体に勢いが出なくなるのは当然のこと、**高校受験後に学習を一切ストップしてしまう生徒が多い**のです。「高校合格は通過点だ」という考え方からすると、このような状況は高校受験の成功とは呼べません。

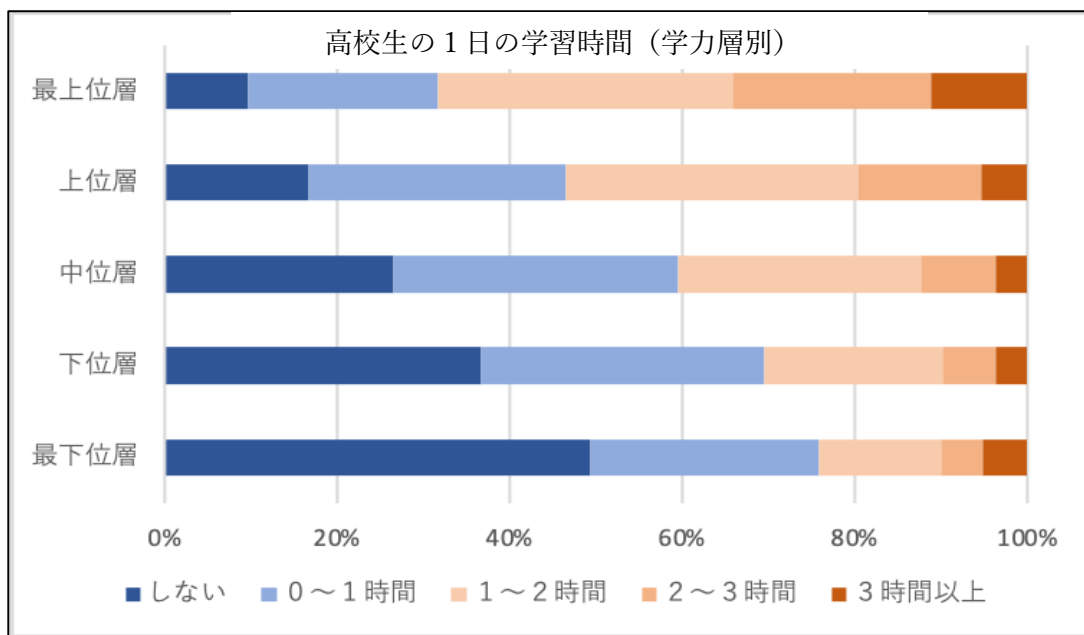
学習習慣を失くしてしまう！？

次のグラフを見てみましょう。



このグラフから分かることは、**中学3年生のころと比べると高校1年生は学習量が激減**し、半数以上の高校生が「1時間未満」の勉強量となるということです。これは「**高校合格がゴール**」と捉えてしまっていることが原因です。

また次のグラフもご覧ください。

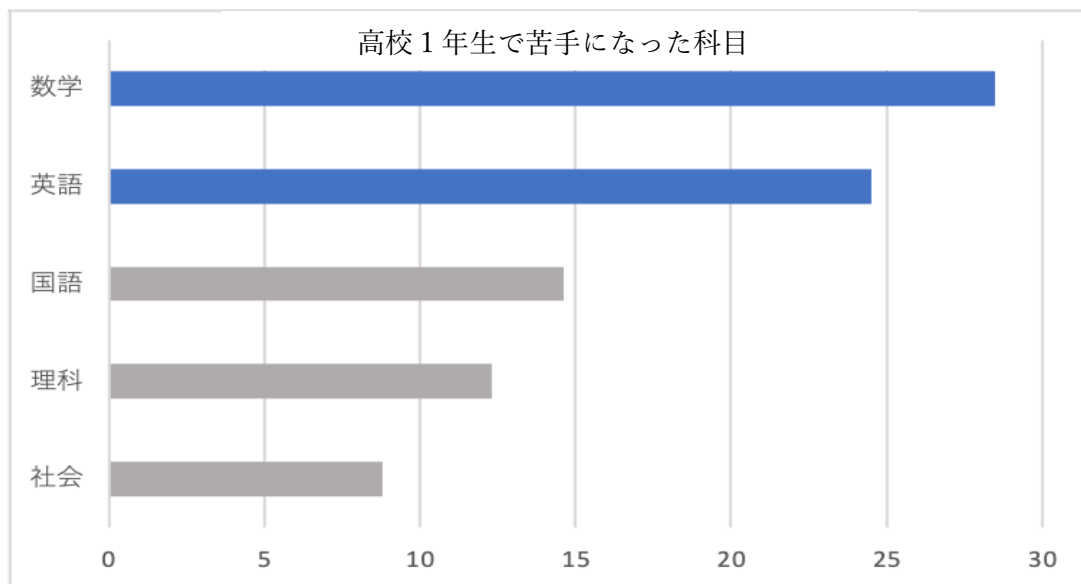


文部科学省「21世紀出生児縦断調査」(2018年)より

このグラフから分かることは、特に「**成績中位層以下**」では、**より学習量が少なくなる**ということです。なんとか高校受験がおわったものの、そこから学習量を激減させてしまうということですね。

苦手科目が増える！？

このように、「**高校合格がゴール**」と考えてしまい、その結果高校受験後に学習を一切ストップしてしまうと、どうなるのでしょうか。簡単に想像がつくと思いますが、苦手科目が増えます。特に英語や数学といった主要科目は高校に入ると授業スピードが速くなるので、上記のような学習状況ですと、成績が落ちてしまうのは目に見えています。実際に次のグラフにあるように、**高校1年生は英語・数学が苦手になりやすい傾向**にあります。



ベネッセ教育サイトより

高校では中学より学ぶ内容が増えるため、一旦苦手になると、取り返すのに大変苦労します。このような状況になってしまうと、その先の進路の選択肢が減ってしまうのです。

苦手科目が増える大きな要因となる新学習指導要領

このように、一般的に高校1年生の学習量は下がる傾向にあります。加えて、2022年度から高校に導入された**新学習指導要領の影響**のもとで、学校の勉強の難易度が上がり、**内申を取るためにより早いタイミングから、かつ継続的な努力が必要**になりました。

主に以下のような変化が生じることになります。

| 教科 | 新学習指導要領での主な変更点 |
|----|--|
| 数学 | <p>①数学 I に「仮説検定」、数学 A に「期待値」、数学 B に「確率分布と統計的な推測」が導入されるなど、データ分析の基礎知識を必須項目として学習しなければならなくなる。</p> <p>②従来は廃止されていた数学 C が復活し、特に国公立受験生では文系であっても共通テストにおいて数学 C が受験必須になる。</p> |
| 英語 | <p>①暗記が必要な英単語数は、従来の3000語から、4000～5000語に急増した。</p> <p>②「授業は英語で行うことを基本とする」と学習指導要領に記載されている。</p> |

| 教科 | 新学習指導要領での主な変更点 |
|-----|---|
| その他 | <p>学習指導要領に「<u>ディベートやディスカッション</u>を通じて意見や主張などを（中略）伝え合う」とあったり、「<u>知識を相互に関連付け</u>てより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、「<u>問題を見いだして解決策</u>を考えたり、思いや考えを基に想像したりする」とあるように、「知識を活用させる」ことが求められる。「<u>丸暗記</u>」だけの学習が通用しなくなる。</p> |

以上をご覧いただければわかるように、**学習量が増加することに加え、学習を通じて得た知識を活用することが求められます**。多くのことが求められるこのような状況のもとでは、日々の地道な学習の重要性がさらに増します。高校受験後に学習量を一気に減らし学習習慣を失ってしまうと、勉強が苦手になり取り返しがつかなくなる可能性が高まっています。

新しいことが目白押し的高校生活

学習以外の面でも大きな変化があるのが高校生活です。小学校・中学校といったある種連続した環境から大きく離れ、慣れない環境に飛び込んでいくことになります。学習以外の面での変化もイメージできるよう、ここでは2つ例を挙げてみます。

①様々な人間関係がうまれます！

中学校はおおよそ3～4校の小学校からしか生徒が集まってきません。しかし高校になると、数十の中学校から生徒が集まってくるようになります。**暮らしてきた地域環境・家庭環境が異なる同級生**に囲まれることになります。これまで「小さい頃から見知って気心の知れた」仲間と過ごしてきた新高校1年生は、「**全く異なる環境で暮らしてきた**」新しい**同級生**と人間関係を結んでいかなければなりません。新しい経験の喜びもあれば、苦しさもあることかと思えます。

②部活も大きく変わります！

「小さい頃から見知っている」仲間から離れていくことは、部活にも当てはまります。中学校の部活だと、小学校のころから知り合いだった上級生がいるなどの理由から、上下関係があまり厳しくなく、発育段階に合わせ、部活の指導も一般的に穏やかです。

しかし高校に入ると、入部してくる多様な生徒にまとまりをもたせるために、**上下関係**

が比較的厳格になり、成熟した高校生への指導は厳しくなります。

このように、学習以外にも様々な変化が起こります。これらを何も知らずに高校に入ってしまうと、**最初**はついていくのがやっとなってしまうます。その影響は学習にも表れ、部活や人間関係によって学習が追いやられてしまうかもしれません。

さてここまでいかがでしたでしょうか。「**確かに高校になったら今より勉強に身が入らなくなりそうだけど、それは仕方のないことではないか?**」とも思うかもしれません。その通りだと思います。現在の受験期のような学習量を求めることは塾としてはしませんし、新しい人間関係や部活も精一杯楽しんで経験してもらいたいと思っています。

しかし、何も想定せず、準備せずに高校に入ってしまうと、自然に学力が落ちていくことはたしかです。新学習指導要領の下ではなおさらです。言い換えると、**上で見たような傾向を何も知らず、「高校合格がゴール」と考えていると、誰しも学習習慣を無くしてしまうのです。**

しかしここまで読んでいただいた方は、この将来の危険性をすでに知っています。そうであれば、この事態を避けるために、考え方を考えることができます。つまり、**「高校合格がゴール」ではなく、「高校合格は通過点」と考えることが重要である**とわかっていただけるかとおもいます。高校に合格することは当然のこととして、その先の高校生活の成功までを含めて、高校受験の成功だと考えるようにしましょう。

Freewill 学習塾では、そのように考えるためには、高校受験直後から少し視線を伸ばし、大学受験の制度について知ることが重要だと考えます。そこで、次に大学受験の制度についてみてみることにしましょう。



落とし穴に落ちる前に・・大学入試を知ろう！

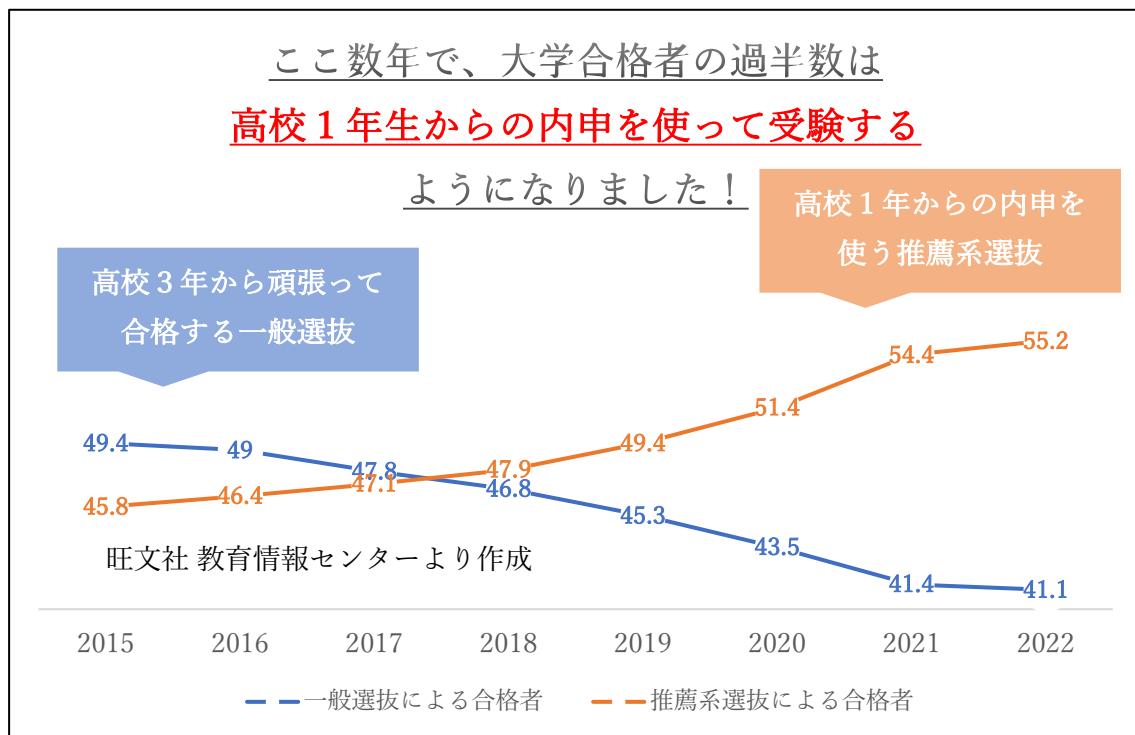
かつて、「高校合格がゴール」が通用した時代があった

実は、20～30年前であれば、「高校合格がゴール」と考え、高校1～2年は次なる進路を考えずに過ごしていてもよかったのです。高校3年生から気持ちを入れ替え、予備校に通い、高校3年の1～2月の入試での戦いに勝ち、大学に入学することができたからです。

しかし、近年は状況が大きく変わり、高校3年生からの逆転合格が難しくなってきました。そのため中学3年生の頃から、「高校合格は通過点だ」と考えておくことが必要になっているのです。なぜでしょうか？

現在は大学入試の主流が大きく変化している！

近年の大きな変化を把握するため、まずは次のグラフを見てみてください。



このグラフからは、大学入試改革が進んできたここ数年で、「**大学入試の主流が、一般選抜から推薦系選抜に移っていった**」ということがわかります。ただ「一般選抜」「推薦系選抜」といった用語がいきなり出てきてもわかりにくいですね。以下で説明します。

大学入試制度の概要

大学入試には大きく分けて**2つの入試形式**があります。

①一般選抜

1つ目は、1～3月の試験日にペーパーテストを受験して、その点数で一発勝負をする入試形式です。高校入試における「一般入試」と同じような入試形式です。

②推薦系選抜

2つ目は、9～12月にかけて行う入試で、主に学校内申などを使って評価がされます。細かくいうと、(1)学校推薦型選抜(2)総合型選抜の2つに分かれ、いずれも高校入試の「推薦入試」のように考えられがちですが、大きな違いがあります。それは、

- ・入試で用いる「学校内申」は高校1年生～高校3年生の1学期、の平均内申である
- ・内申のほか、詳細な志望理由書や小論文などの提出が求められる

といった点です。

ここで押さえておいていただきたいのは、「**推薦系選抜という選択肢を得るためには、高校1年生から内申をとっておく必要がある**」という点です。

現在の主流は、高1からの内申を使う推薦系選抜です！

先ほども述べたように、一昔前の主流の入試形式は一般選抜(当時の「一般入試」)でした。高校の内申に関係なく、試験日に得点を取れば合格可能なので、「**高校3年生から予備校に通って、逆転合格**」というスタイルの受験勉強がかつての**主流**でした。

しかし、近年の大学入試改革に伴い、このスタイルに大きな変動が生じています。一言で言えば、「**現在の主流の入試形式は推薦系選抜になった**」ということです。

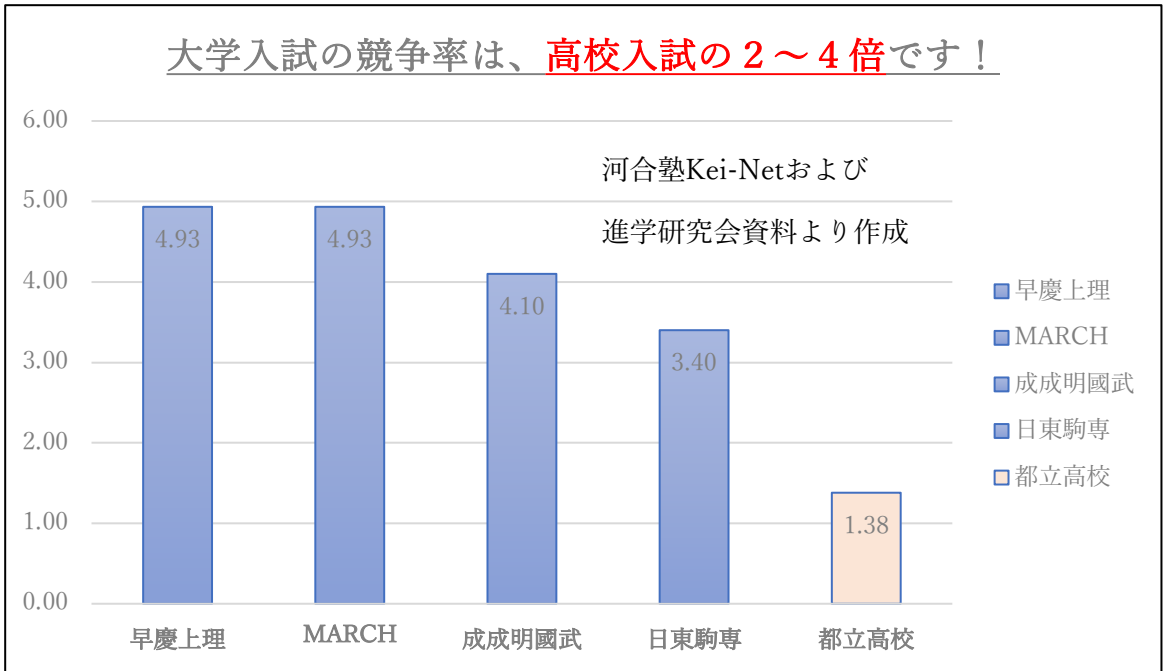
さて上記のように推薦系選抜では、評価に用いられるのは「高校1年生から高校3年生の内申の平均」です。つまり、「**高校3年生から頑張る**」という**選択肢をとった場合、大学入試の選択肢の半分以上を失ってしまうこと**になります。

さて、内申は中学校と同じく、定期試験の点数によって大部分が決定されます。高校受験が終わったおおよそ3ヶ月後の5月には1学期中間試験が控えていることを考えると、高校受験が終わった後に、ある程度の学習量を維持すべきだとわかります。

内申がとれなかったら、一般選抜で厳しい戦いが待っています

では、もし内申をとれず推薦系選抜の選択肢を逃してしまうと、どうなるでしょうか。一言で言えば、「高校入試より競争率の大幅に高い、難しい一般入試を受けなければいけない」状況になります。

まず「高校入試より競争率が高い」という点については、以下のグラフをご覧ください。



※主要な大学な略称については以下を参照

早慶上理 : 早稲田大学、慶應大学、上智大学、東京理科大学の総称

MARCH : 明治大学、青山学院大学、立教大学、中央大学、法政大学の総称

成成明國武 : 成城大学、成蹊大学、明治学院大学、國學院大学、武蔵大学の総称

日東駒専 : 日本大学、東洋大学、駒澤大学、専修大学の総称

このグラフをみると、東京都の都立高校の入試倍率が1.38倍であるのに対し、日東駒専以上大学の入試倍率は、3～5倍ほどと、**高校入試の2～4倍**であることがわかります。

東京都の高校入試が主に東京都在住のライバルたちとの戦いであるのに対し、大学入試は全国のライバルたちとの戦いであることを考えると、この数字も頷けるものなのではないでしょうか。



まとめ：高校受験後の過ごし方のポイント

さて、ここまで以下のことを述べてきました。

①高校生のほとんどが大学等に進学する。つまり「高校合格は通過点」にすぎない。

②しかし「高校合格がゴール」と考えていると、多くの生徒が受験後に学習をストップしてしまう

③学習をストップすると、進学の実選択肢の半数以上を失う

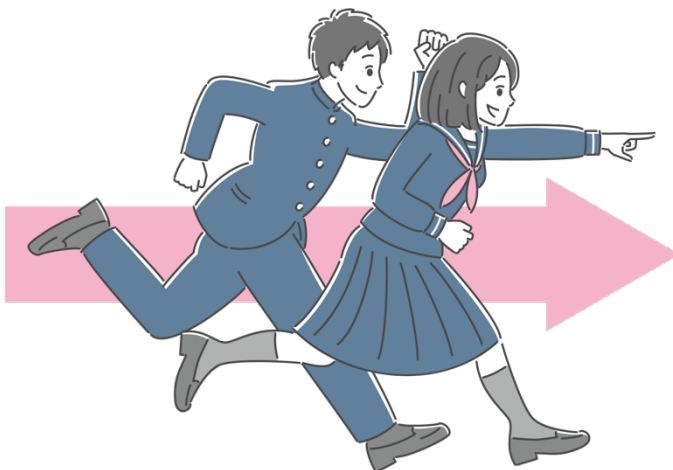
ここからわかることはなんでしょうか。非常にシンプルだと思います。それは、

- ・「高校合格がゴール」ではなく「高校合格は通過点」だと考えること
- ・高校の先の進路や高校生活までを今のうちにイメージしておくこと
- ・その結果、高校受験後も学習量のある程度維持しつづけること

です。当たり前のように聞こえることですが、この当たり前を実践するのが難しいのです。長年中学生から高校生を指導してきた我々としては、そして近年の大学入試改革を目の当たりにしてきた我々としては、なんとかこの当たり前を実践してほしいと強く願っています。

「偏差値の高い大学に行ってほしい」と思っているわけではありません。第二部の冒頭で述べたように、未来に無限の可能性を秘めている中学3生が、自分の選び取ることのできる選択肢を最大化するために必要なことをしてほしいと思っています。

一人一人の受験生が、高校合格で足を止めることなく、その先までイメージをふくらませ、一気に高校受験を駆け抜けてくれることを願ってやみません。



おわりに

最後までお読みいただきありがとうございます。いかがでしたでしょうか。

高校受験を成功させるには、受験までの残り数ヶ月に何を行うべきか、そして高校生活やその先どのようにイメージすべきか、ご説明いたしました。

「高校合格がゴール」ではなく「高校合格は通過点」と考え残り数ヶ月を過ごすことで、高校合格がより近づくだけでなく、その後の高校生活も充実したものになります。その結果、自分もつ可能性を最大限に追求する選択肢を得ることができます。

とはいえ、「言うはやすし、行は難し」。高校受験にはこの言葉がぴったり当てはまります。実行できるよう、Freewill 学習塾として全力でサポートしていきたいと思っています。よろしくお願ひします。

今後、今の受験生は、保護者様の時代とも、私たち講師自身の時代とも異なる大きく変化した学習環境に飛び込んでいくことになります。改革の渦中に投げ込まれていくことになる、とも言えるでしょう。

この逆境のなか、私たちとしては、受験生たちが与えられた学習環境にうまく適応して自律的な学習ができるようになってほしいと望んでいます。

大人になってからは、与えられた環境のなかで目標を達成するために、自ら切り開いていく力が必要となります。高校受験・大学受験といった機会に自律的な学習をおこなう力を身につけ、今後活かしてほしいと願っています。

教育が大きく変わるこの時代だからこそ、常に情報を集め、生徒や保護者様にとっての道標になるようにサポートさせていただきます。お困りのことやご心配ごとがありましたら、遠慮なくご相談ください。

今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

Freewill 学習塾塾長 柴山健太郎

